

第4回荏原環境プラント「e-さが基金」2021年度助成事業活動報告

<チャレンジ枠>

コアジサシ営巣地の保護・保全（日本野鳥の会佐賀県支部）



諸富町の佐賀市浄水場跡地でコアジサシの雛が無事に巣立てるよう、営巣地への小動物侵入防止、カラス対策などでの「コアジサシ営巣地の保護・保全に取り組みました。

コアジサシデコイ作成及び営巣地周囲に小動物侵入防止ネット貼り、デコイ及び雛避難用シェルター・カラス対策忌避材を設置。4/9に1羽初渡来、26日には20羽に増え繁殖に入りました。雛が孵り巣立つまで、捕食の被害にあわないよう今後も見守ります。

嘉瀬川流域水路・有明海干潟の環境改善（特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸）



牡蠣礁を復活する竹立て作業
ムツゴロウになった子供たち（7月18日）



森林公園自然池池干し作業
池中央に到達（11月13日）



ビオトープ池・ホタル水路脇の清掃作業
（1月7日）

「佐賀県立森林公園にホタルを飛ばそう」「国・県・市民団体協働で森林公園自然池の水環境を改善しよう」を目標に、嘉瀬・久保田・鍋島の3まちづくり協議会とNPO法人嘉瀬川交流軸、佐賀県立森林公園指定管理者G3を主体とし、佐賀県佐賀土木事務所と国土交通省武雄河川事務所も参加し、佐賀県立森林公園をフィールドに、官民協働で森林公園自然池の水環境プロジェクトを実施。また、厄介者の竹林の竹を伐採し、有明海干潟に立て込んで牡蠣礁復活を図る事業にも取り組みました。

各取組みに一般参加者、スタッフ両方に次世代を担う若者達が多数参加してくれました。

今後も自然池周辺にホタルが飛び、臭いのしない噴水が来場者を楽しませる森林公園となることを夢見
て官民協働で頑張っていきます。

東よか干潟環境教育コンテンツの開発（浅海干潟環境学 lab）

東よか干潟ビジターセンター“ひがさす”と連携して、環境教育コンテンツの開発と環境教育イベントを
実施。



- 1) 漂着プラゴミに関する環境教育コンテンツの開発、
- 2) ひがさすでの体験学習イベント（ひがさす FieldSchool）を開催
- 3) 有明海、干潟の一般市民向けの教材作成・出版「有明海を探る」（一粒書房）の執筆と出版。

今後もひがさすと連携し、漂着プラゴミに関連する環境教育プログラムを構築すると同時に、漂着プラ
ゴミの環境イベントを2022年8月末に開催予定。東よか干潟の生き物や生態環境に関連する体験学習プ
ログラムを構築していく。

有機物の堆肥化及びアースラブ母材の作り方・生ごみ処理の講座

（特定非営利活動法人元気・勇気・活気の会）



循環型社会を構築するためにアースラブ（銀の雫）による生ごみ、畑の除草した草、植物残差、畜産廃棄物等の有機物を有効に活用する方法として堆肥作りの研修会を実施。提供したアースラブ母材により、良質な堆肥を作られ有機農業に活用される。また、生ごみ等の有機物を処理し環境保全に寄与する。

<モデル枠>

自然体験機会の活用と人材育成（特定非営利活動法人さかの樹エコトープ SATOMORI）



自然体験機械の活用として、

- ① トンボ池の活動保全活動、②ミヤマアカネ保全活動、
- ③いまり「こまなきの里山」自然体験

人材育成として

- ① ビオトープ塾（自然環境保全管理技術者育成）、②いきものと緑のサポーターミーティングとして、SDGs と森川海人について考えるミーティングを開催



今後も活動を継続していき、次世代に豊かな自然環境と人材を継承することに努めたい。

「地球を考える日」～東北大震災から10年、キヲクをつなぎ、東よか干潟で地球環境を考え・行動する日～（神野公園音楽祭実行委員会）



第2回アースコンサート（11月6日実施）コンサート出演者は1曲以上地球や環境に関するメッセージ曲を披露し、参加者はゴミ回収または廃食用油を持参を条件として開催。イベントの合間に漂着ゴミの回収、清掃活動をし、海洋ごみアート作品の創作。その他、海洋プラスチック問題に活用するための募金活動、地中熱現地見学説明会などを実施。地球環境を音楽や芸術を通して考えるきっかけとなり、環境を考える新たな市民を作ることができた。

<ネットワークづくり枠>

「ゼロカーボンシティさがし」応援WEBサイト作成事業（特定非営利活動法人温暖化防止ネット）

みんなで目指そう！「ゼロカーボンシティさがし」チャレンジサイト立ち上げ

<https://zccs.saga-collabo.com/>

佐賀市の施設や市民・事業者・団体等の取組みに関する情報発信と交流促進を行った。

市の施策の4つの軸「再生可能エネルギーの導入と利用の最適化」「家庭、事業活動での省エネ促進」「地域環境の整備・向上」「廃棄物の発生抑制と循環型システムの普及」についてテーマ分けし、かみ砕いた表現や動画等を用いて具体的な取り組み方法を紹介。

各分野において実際に取り組んでいる事業所等のインタビューを通して、環境の観点だけでなく、経済性や快適性などを含めた好循環についても紹介した。

これにより、市民が脱炭素社会形成の意義の必要性について認識し、各主体がそれぞれの立場で取り組める具体的な温暖化防止活動について知り、行動に移すきっかけを作ることができた。